

第248号
2009年12月 1日
行 富山市内幸町3-22 (菅谷ビル4階)
新日本スポーツ連盟 富山県連盟
電話 (FAX) 076-441-0541
発行責任者 林 憲彦

新日本スポーツ連盟 富山県連盟 第29回定期総会決議

富山県連盟の活動と今後の展望

富山県も少子高齢化の傾向が進んでいます。「元気で長生き」が中高年の目指すものになっています。

私たちスポーツ連盟とやまも高齢化が進んでいます。若年層の加盟を目指すことは大切ですが、今の中高年層の期待を如何にくみ取っていくかが大切ではないでしょうか。

そのためパークゴルフなどの試行やウォーキングの取り組みへの支援などを行ってきました。

スキーやウォーキングを通じて各クラブの交流も進めてきましたし、全国スポーツ祭典への参

加や全国ウォーキング交流集会への参加も取り組んできました。

この他にも、加盟クラブ相互の協力・共同の取り組みは、事務所の共同利用やスポーツ傷害見舞金制度の活用などがあります。

平和の課題ではクラブを越えた会員による「反核平和マラソン」も15回を数えるようになりました。

この様に様々な形でスポーツ連盟の理念に基づく運動を展開するよう努力してきました。

28期の主な活動について

- 初滑りとスキー協の指導員研修に協力…12/20・21 30名参加
- スキー協北信ブロックスキーフェスティバルに協力…1/24・25 30名参加
- 北海道スキーツアーの実施…2/19～22 16名参加
- ウォーキングクラブ結成に向けての取り組み→クラブの結成…3/1結成 23名(現在30名)
- 研修「スポーツ連盟とやまの歴史と今後の課題」とスポーツ交流会(パークゴルフ)開催…
…5/23 13名参加
- 反核平和マラソン
 - 砺波～県境(引継地点)…6/13 ランナー12名、サポーター7名
 - 楡原～富山城址…6/28 ランナー3名、自転車1名、サポーター2名
- 石川でのサマースポーツセミナーへの協力…8/29・30 10名参加
- 年13回の理事会開催

これからの活動について

- ・スポーツ連盟運動の原点に立ち返った運動を!

スポーツ連盟は

- ①スポーツを行うことは基本的人権であり、権利にふさわしい文化として発展させる。
- ②自主的なスポーツクラブの確立と発展を基礎に多様なスポーツ活動を行いフェアプレー精神をつちかう。

- ③競技水準・技術の向上と科学的な指導法や一貫した指導体系の確立をめざす。
- ④公共スポーツ施設などの拡充を国や自治体の責任で実現する。
- ⑤オリンピック運動の理想であるスポーツを通じて真の友好と世界の平和の実現に貢献する。
を掲げて活動しています。

私たちは②にあるように多様なスポーツ活動（Play）を行いそのための様々な活動（Movement）を目指しています。この創立時の精神に立ち返って活動することが求められています。

財政活動

2009年度予算は積立基金から30000円を取り崩して収入に当てて財源を確保したかたちですが、収支は、結果として5万円あまりの残金となりました。それは、今年のサマースポーツセミナーが隣県石川県で行われたため、派遣費（交通費補助）がゼロであったことと、研修会の講師を県連盟員が無償で行ったことが主な理

由です。

収支はそうですが、収入面では、連盟員の減数により、分担金収入が1万円余り減っており、2010年度以降のスポーツ連盟の活動の制約条件となってくると思われ、連盟員が増える活動、行事が必要です。

機関誌「スポーツのひろば」活動

購読者数については、「宣伝誌」を活用して新スキークラブ会員などへ各理事が拡大努力をしてきたのですが、この一年間で二部の減誌となりました。

読者への配達・集金と全国への誌代納入だけでなく、スポーツ連盟加入の各種目やクラブに対して「ひろば」誌の活用方法などについても今後理事会で検討することが必要と考えます。又、スポ

ーツ連盟以外への購読も呼びかけ読者拡大に努めます。

配達・集金・誌代納入については、これまで同様速やかな配達（月の10日までに届ける）・集金（半年に一度、読者に誌代を請求する）に努め、「ひろば」誌代金の全国への納入も遅れることがないようにします。

2009年度（2008/12～2009/11）の種目組織・クラブの活動

富山県勤労者スキー協議会

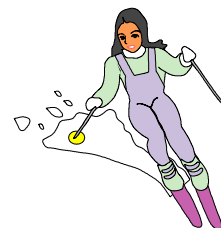
温暖化の影響か、スキーシーズンの始まりが遅くなり、終わりが早くなった感じがします。

しかし、今シーズンも新クラブの積極的な動きが目立ちました。昨年4月に結成した「レッドウイング」が、3泊4日の北海道ツアーを実行（16名の参加）しました。

一方、全国スキー協の40周年記念行事には、会場が赤倉スキー場と近いにもかかわらず、宣伝不足もありほとんど参加できませんでした。

指導員派遣については、ここ数年固定した小学校のみの要請で、県内の指導員で十分応えられます。シーズン前にこれまで要請のあった学校にお願いをしているのですがむずかしい状況です。

クラブ員については、当面60人を目指していますがシルバースターSCで5名の会員拡大があり現在55名の会員です。



富山ハイキングクラブ

会員の高年齢化への対策、会運営スタッフの慢性的ななり手不足、加盟団体の理念や活動に対する理解の不十分さからくる脱退の意見等、課題・問題山積の状態。いずれも一朝一夕で解決できることはありません。数名の有志の尽力でクラブの機能を維持してきました。

今年度も会員数の暫減傾向は改善せず、10 数名減らして 10 名弱入会者を迎えるという年が続いています。ただ今年は比較的若い人(40~50代)が入会されたのがうれしい傾向です。

山行数はほぼ例年通りのペースで推移しています。(1月~10月末までで会企画 40 回、自主企画 20 数回<報告のあるもの>)会報「四季の道」は毎月の発行が今年も守られました。あわせてクラブホームページも更新がリアルタイムで行われ、新入会員を迎える大きな力となっています。

三島野スポーツクラブ

会員は44名から46名に微増(退会もあり)。里山からほぼ毎週山に入るほどのクライマーまでを包含するクラブで、ハイレベルの登山を志向する人々に山行内容の不満があったようです。(退会の理由ではないかと考えられます)

会員が増えるに従って、行動範囲(高さ・広がり)が広がってゆくことに対応するクラブの力を付けて行く必要があるように思われます。

会の運営と登山技術の指導と言った2つの要を車の両輪のように例えると、片方だけが大きく

かっぱの会

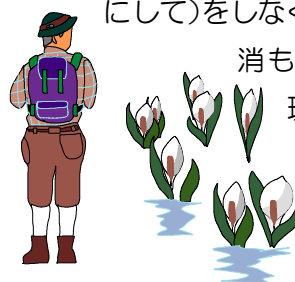
月例会は月1回、会員の2名のコーチの指導で行ってきました。今年は参加者が毎回7~10人と安定していますが、人が固定化しているので、もっと広げる努力が必要と感じています。

研修会は滑川温水プールの指導員により年2
競技会への参加

2月滑川市民水泳フェスティバル、6月滑川市体には、役員・選手として多数参加して大会運営

今年度の活動で特記すべきはなんと言っても、有志による「稲村城山」(上市町)の新登山道の整備でないでしょうか。(新聞・ケーブルテレビ報道あり)地域に登山・ハイキングの楽しさを広める契機になり、同時に富山ハイキングクラブの名前を知らせたことは間違いないと思います。今後、毎年手入れにはいって末永くかかわっていかなくてはならないと考えます。

このように地域・住民にみえる活動を展開しながら、意識的に会員を増やす取り組み(特に若い世代・経験の浅い人たちに向けて教育活動を主体にして)をしなくては会員拡大も高齢化解消もスタッフ不足の解決も実現できないと考えます。



なると言う成長では登山運動の正しい発展方向に進むことは出来ません。

運営体制(世話人会)、機関紙発行、会企画の豊富な内容など山行でのリーダーシップ、グループシップの醸成などを重視していくことが大切になっていきます。



回行いました。1回はビデオ撮影により、1回はプールで実際の泳ぎを見ながらの指導でした。

参加者は泳ぎの向上を目指して非常に熱心に取り組んでいました。

にかなり寄与しています。

6月と10月日本マスターズ富山大会には参

加者1名ですが今年も1位になっています。

7月県体には滑川市チームとして1名参加。

その他では、1泊旅行や新年会、パークゴルフ大会など親睦的な行事にも全体的に参加者が増えてきています。

今年も新入会員がりましたが、高齢になり退

富山ウォーキングクラブの活動

昨年クラブ結成をしましたが、3月に初めての総会を開催しました。それまでの活動経過や財政の報告は承認され、5人の運営委員を選びました。ただ、会長のなり手が無く事務局が引き続き運営の仕事を担当しています。

例会は荒天中止を除いてほぼ毎月行われ、会員の提案による企画も出てくるようになりました。

雷鳥ランニングクラブの活動

当クラブの構成員が変わらない中で、月2回の例会は継続して行っています。

年とともに平均年齢が上がることによって、走れる状況にない会員が増えつつある状況にあります。

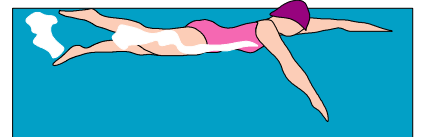
そういう中でも、「反核平和マラソン」は今年15回目をむかえ、県連盟の取り組みとして実施していることもあり、サポーターの参加やランナーも新しい顔を見ることが出来ました。

継続は力であることを実感して、恒例の砺波から石川県境への引継と独自コース・庵谷峠を経て富山城趾へ至るコースで平



新日本スポーツ連盟富山県連盟第29回総会に
全国連盟と石川県連盟よりお祝い
と、激励のメッセージを頂きました。
有り難うございました。

会する人もいました。会員増加に向けてますます楽しいクラブにしていく努力が必要だと思います。



10月18日現在の会員数は30名（昨年の総会時は19名）になりました。

今後の課題としては会長・会計・事務局を正式に決めること、会企画をもっと増やすことだと思います。また、会員の数に見合った運営委員の増員と定期的運営委員会も必要でないかと思いません。

和へのアピールを行うことが出来ました。

又、石川県連盟主催のウォーキングには3名参加するなど、連盟行事の参加や走友等との交流にも積極的に参加するようにしています。

しかし、クラブに勢いをつけるには、全国行事への参加や、クラブ独自の大会などを行うことの必要を感じています。

そこで、新年度に「常願寺川公園・堤防道路」を使ったマラソン・ジョギング大会を開く準備に入りたいと思っています、12月には試走会を行い、3月末に大会を開けないかと考えています。

決まれば、県連盟の皆さんのご協力をぜひお願いします。



第29回定期総会議事録

【司会・開会挨拶】：山村副理事長

議長選出：三島野スポーツクラブ岩井富雄さんを議長に選出

【議長挨拶】

メッセージ（全国連盟・石川県連盟）紹介：山村副理事長

【活動経過報告・活動方針の提案】：林理事長より議案に沿って報告と提案

【09年度会計報告】：荒井財政部長より報告

【会計監査報告】：寺山秀行（三島野スポーツクラブ）監査委員より報告

【質疑・討論】

Q 吉村（富山ハイキングクラブ）：①全国ウォーキング交流の取り組みはどうだったのか②「スポーツなかま」に理事会報告が載らなくなったのはどうしてか③記事はウォーキングの記事が多いように思われるが、どうしてか

A 林理事長：①2～3の参加希望があったが車の手配が出来なく断念しました。②会報は編集上の都合や必要性も考慮して考えていますが、意見を大切にして編集します。③それぞれの種目によりシーズンが異なりやむを得ないと思います。これから冬になるとスキー関連が多くなると思います。理事会の後の部分で編集会議を行っていますが、各クラブからの記事を寄せて貰わないと偏るのも事実です。

Q 赤星（富山ハイキングクラブ）：積立金の取り崩しはどの項目に入っていますか

A 荒井財政部長：その他の項目に入っています

A 林理事長：関連して積立金は前事務所の立ち退き補償料を基金にしているので、今後増えることはありません。

Q 吉村（富山ハイキングクラブ）：「なかま」にサマースポーツセミナーの感想文は載っていたが、内容についても載せるべきでないか

A 林理事長：全国連盟がビデオに撮り、DVDにして普及しています。希望者にはそれで渡しました。今ビデオデッキの販売はやっていないそうですが、希望があればビデオにしてお渡しします。

Q 寺山（三島野スポーツクラブ）：最近会員が減少傾向にあると思われませんが現況はどうですか、また県連盟の行事の実施時期を明確にされたらよいのでは

A 林理事長：富山ウォーキングクラブが新たに誕生し、富山ハイキングクラブで減があり、全体では暫減の状態です。行事については今総会で提案できれば良かったのですが、次回理事会で決めることで了解を頂きたい。

Q 大浦（雷鳥ランニングクラブ）：県連盟の分担金の納入システムは？

A：青山理事：各クラブの会費から納入されています。

Q 吉村（富山ハイキングクラブ）：県連盟の強化は連盟員を増やすことで、そのために新会員への教育についてもっと力を入れるべきではないか

A 林理事長：新しい会員を大切に育てることは重要であり、そのためにカリキュラムも考えなければならないし、各クラブがそれぞれの方針実現のため独自の方法を考えることも求めたい。

【資格審査報告】：代議員定数25名、13時43分現在出席代議員21名、委任状提出4名で、過半数の13名を越え、総会は成立している。

【活動報告・会計報告・監査報告の採決】：全員賛成で採択されました。

【予算案の採択】：賛成多数で採択されました。

【新役員の承認】 所定の手続きの期間に届け出でのあった7名を、拍手で承認。

【役員退任挨拶】：山田格さん「理事を辞めてもスポーツ連盟のメンバーとして今後もいろいろ協力して頑張りたい」

【新役員の挨拶】：退任の山田格さんは、水泳クラブの発足や運営、また高岡での親子水泳教室の継続、ウォーキングクラブの設立準備段階からの尽力がありました。理事は1名減となりましたが、第1回の理事会で理事長に林、副理事長に寺田さん・山村さん、財政に荒井さん、「スポーツのひろば」担当に長谷川さんの留任が決まりました。今後のスポーツ連盟の行事への積極的参加をお願いします。

【議長退任挨拶】 岩井富雄議長

【閉会挨拶】：寺田副理事長

【閉会】

北信ブロック指導員養成・研修会と初滑り



＝スキー協よりのお知らせ＝

仲間の誰よりも早く

志賀高原で教程を十分学び・理解し

初滑りは思う存分新雪を滑ろう

今年も、指導員養成・研修会を行います。教程実技を雪上でしっかり学び理解を深め、初滑り参加者はパウダースノーの志賀高原を思う存分滑りまくり夜は楽しい交流会そんな二日間です、指導員も指導員を目指す人も初滑りの人も多くの仲間を誘って10シーズンの滑り始めにしよう。

- ・ 日 時 2009年12月19日(土)～12月20日(日)
(9時～開校式) (14時30分～閉校式)
- ・ 会 場 養成・研修会参加者は 志賀高原熊の湯スキー場が中心
初滑り参加者は ガイド付きで志賀高原全ゲレンデが対象です
- ・ 宿 舎 志賀高原熊の湯「リバーサイド・ホテル」(TEL 269-34-2609)
- ・ 参加費 養成・研修会参加者 15,000円(宿泊費・講習料・交流会費等)
初滑りコース参加者 11,000円 (宿泊費・交流会費等)
尚、参加費にはリフト代金・交通費・昼食代は含まれていません。

(注)養成・研修会に参加の方は指導員証・リーダーテキスト・教程本を必ず持参のこと。

・参加申し込みの締め切 12月15日必着。

〒938-0063 黒部市生地四ッ屋新56-1 長谷川 博 又は

FAX 0765-54-3093 まで

(切り取り)

指導員養成・研修／初滑り 参加申し込み書

氏名 _____ 年 齢 _____ 才 性 別 男 ・ 女

〒 _____ 住所 _____

電話番号 _____ () _____



参加コース ・ 初級養成 ・ 中級養成 ・ 初級研修 ・ 中級研修 ・ 初滑り
交通手段 ・ 相乗を希望する ・ 個人で、または友人などと乗り合わせてゆく

「生地（黒部市）名水巡り」

日 時 2009年12月12日（土）

集合場所 黒部漁港名水公園広場 又はJR生地駅前（名水公園までマイカーでピストン輸送します）＝JRで参加の方は申込み時にその旨お伝え下さい。

集合時刻 10:00 am（生地着9:38の電車にお乗り下さい）

参加費 500円（会員無料）

持ち物 昼食（魚の駅に食堂？があります）・飲み物・
雨具（上下分離式で通気のよい物）

装 備 ウォーキングシューズまたはトレッキングシューズ（スニーカー可）

神田の清水



申込み・お問い合わせ 林 憲彦さんまで（0766-82-6035 nori@po4.canet.ne.jp）

締め切り 12月8日（火）

交通機関などの時刻

高岡	小杉	富山	水橋	魚津	生地
8:32	8:40	9:05	9:16	9:29	9:38

コース概要

JR生地駅（9:38）→魚の駅（10:00）→海底遊歩道→清水庵の清水→新治神社→月見島の清水→第一温泉の清水→田中冬二の句碑→謙信手植えの松→薬師堂→龍泉寺→生地の台場→生地鼻灯台→生地中橋→魚の駅（昼食11:30～12:10）→弘法の清水（四十物町）→岩瀬家の清水→絹の清水→殿様清水→弘法の清水（神明町西・東）→神田の清水→田村邸の清水→前名寺の清水→みどり町の清水→越の湖跡→中島の清水→道の駅（14:00）



名水公園の清水

帰りのJR時刻表 生地発14:38